

# お 泉 水

1994年3月1日

## ■平成5年度全国図書館大会

今年度の全国図書館大会は、昨秋の9月29日～10月1日、札幌市で開催された。全国から約2千人の参加者があり本県からも7名が参加した。

大会初日、開会式、全体会に続いて開かれた、毛利衛氏の記念講演は、スペースシャトル・エンデバー号内での様子や宇宙から見た地球汚染の状況等ビデオ・スライドを使つての講演は、スケールの大きい内容であり興味深いものでした。

2日目の12の分科会のうち、第1分科会(市立図書館)に参加した。サブテーマにもなっていたA V資料の収集や充実方法について、事例発表や活発な討議を期待したが、論議がなかったのは残念であった。しかし、地域のネットワークや県域のネットワーク等の事例は、大変参考になった。また、国立国会図書館の総合目録事業は、今後の進捗状況に注目したい一つであった。

同日程で、関連の展示会があり、ヤングアダルトの本3,000冊や図書館・ニューメディア展が開催され、日頃、パンフレット等でしか見られないものが、手にとれたのも良かった。研修もし、よく食べた。第79回大会参加は印象的なものとなった。

(福井市立みどり図書館 田中 元和)

## ■平成5年度全国公共図書館研究集会

### ◇奉仕部門

「届けていますか、図書館サービス」をテーマに、10月28日・29日の2日間、広島市において研究集会が開催された。参加者は本県からの7名を含む341名であった。

3館の活動事例をもとに活発な討議がなされたが、多様化、高度化している今日の住民の学習要求に対して、公共図書館はいかに応えていくべきか。社会の変化に対応した図書館サービスのあり方を、いろいろな角度から考えると共に、改めて生涯学習時代における図書館の役割が問われていることを感じた。

また阪南大学教授深井耀子氏による基調講演が、「多文化社会の図書館サービス：カナダ・北欧・日本」をテーマに行われた。その中で、どの地域も多民族化し多文化社会にならざるをえない情勢の下、図書館が変革を求められていることを話され、大変興味深い講演であった。

(福井市立みどり図書館 山口 俊博)

### ◇整理部門

9月16日・17日の両日、新潟市で「総合目録の作成と課題」を研究テーマに、平成5年度全国公共図書館整理

部門研究集会が開催された。参加者は310名で本県からは6名が参加した。

事例発表は、「総合目録の維持と課題」「神奈川県における逐次刊行物総合目録の作成と課題」「郷土資料総合目録の作成と課題」の3件で、各県における総合目録への取り組みの現状と問題点等が発表された。

発表のあと、質疑、研究・協議が行われ、総合目録の標準化、作成手法、維持管理等について、活発な意見交換がなされた。

なお、基調講演は「図書館情報ネットワークと総合目録の役割」(葉袋秀樹氏・図書館情報大学教授)であった。

(福井県立図書館若狭分館 倉谷 さちよ)

### ◇移動図書館・企画協力事業分科会

平成5年10月21日・22日の両日、明石市の明石ロイヤルパレスで、「生涯学習を支援する相互協力と移動図書館」をテーマに、平成5年度全国移動図書館・協力事業研究集会が開催された。参加者は約300名で、本県からは3名が参加した。

研究内容は、「地域に根づくこれからの町村の移動図書館」「質の高い移動図書館サービスをめざして」「ボーダーレス時代の協力事業の現状と課題」の3分科会で、山口県の周東町立周東図書館・浦安市立中央図書館・富山市立図書館・東京都立多摩図書館等8館の事例発表があり、活発な研究討議が行われた。

なお、記念講演は、「子午線と明石」で、講師は河野健三氏(明石市立天文科学館長)であった。

(福井市立図書館 岩本 昌宏)

## ■平成5年度東海北陸地区公共図書館研究集会

11月11日・12日の両日、三重県教育会館で「すべての図書館をすべての利用者に」を主題に開催された。参加者は204名で、本県からは15名が参加した。

研究内容は「相互貸借サービスの新たな展開～館種、地域、国をこえて～」 「新しいネットワークの構築～地域格差の解消をめざして～(MIEネット構想・三重県立図書館ネットワーク構想)」 「公立図書館の設置推進～図書館を利用者の間近に～」で、事例発表と研究討議が行われた。

なお、基調講演は「館種、地域をこえた図書館サービスの新たな展開をめざして」(田中久文氏・日大総合科学研究所教授)で、特別発表として「NACSIS-ILLの新たな展開」があった。

(金津町立図書館 田原 みゆき)

## 複合館で新たなスタート ～ 三国町立図書館 ～

我々を取り巻く環境が大きく変化し、高度情報化、国際化、高齢化がますます進展しつづつあります。この変化に対応して心豊かに充実した人生を送るためには、生涯にわたって学び続けることが必要となっておりますし、刻一刻と変化する国際、国内の情報を的確にとらえることはもとより、住民全体に適切かつ迅速にその情報を提供することがますます課題となってきました。

三国町では、こうした情勢の中で、「活力とうるおいのある個性豊かなふるさと創造」を目指した第三次三国町総合計画の中で、また旧図書館の手狭さと駐車場の不便さを解消する意味合いからも、図書館を一つの核にする複合館の建設を進めてまいり、多目的ホールと展示ギャラリーを含めた「みくに文化未来館」（募集名称）が、敷地11,000㎡の中に、総工費16億7,000万円をかけ、鉄筋コンクリート2階建て、延べ4,035㎡の建物として、平成5年11月1日に開館となりました。

施設は、展示ギャラリーを中央に据え、西側に舞台が昇降する吹き抜けの多目的ホール、東側は図書館となっております。

図書館部分は、地上2階、地下1階延べ2,255㎡で、1階が閉架閲覧室、AVコーナー、事務室などで1,240㎡と広くスペースを取り、2階は研修室、郷土資料室、地階は閉架書庫（2層式）400㎡で8万冊の収容能力（さらに5万冊増設可能）となっており、全体で20万冊が収容できるようになっております。

図書館の特色としては、「みくに文化未来館」を構成する核の一つとして複合館の利点を生かすことは勿論のこと、ワンフロアー、低書架、そして館内に採光が十分なようにガラス面を大きく取り入れ、また建物と接して屋外に「読書の広場」など緑の空間も広く取り込むなど、明るいイメージ作りに努めました。内容としては、ビデオ、CD、LD等を視聴できるAVコーナー、資料や情報などの提供の他に図書館全般の業務を処理するオフコンの導入を行ないました。またこのオフコンに付置し、全国に先がけて三国町の全小中学校6校の図書室と公衆電話回線で結び、町立図書館の約6万冊の蔵書、AV資料、国内で新たに出版される図書の検索と貸し出し予約、それに各校からのメッセージ入力ができるパソコンシステムを稼働させております。また、貸し出しの要望があっ



た図書を、移動図書館車や配本車を使って持参したり、教育委員会にある各校の棚を利用するなど、できうる方法によって資料の提供をしております。

その他、この新設図書館の建設を機に、昭和47年以来運行している移動図書館車「くずりゅう号」の3代目（中型自動車改造、約1,500冊～2,000冊積載可能）を購入し、町内6コースに分け、85のステーションを2週間おきに巡回しております。勿論本館のコンピュータ化に伴いポータブルターミナルを携帯し、運用を行なっております。

また開館と同時に、詩壇の芥川賞といわれる「H氏賞」を側面から援助した、三国町出身の事業家故平澤貞二郎氏の蔵書を集めた記念文庫の創設と共に、昭和26年の第1回受賞者から現在までの受賞作品全てを展示しております。

なお、図書館の開館時間は以前の図書館より一時間ずらし、午前10時開館、午後6時15分閉館とし、休館日は月曜日、第3日曜日、祝日、年末・年始と従来どおりです。

最後に、図書館の管理・運営ですが、複合館という形態から、三国文化振興事業団という財団の形式をとり、「みくに文化未来館」が主として施設及び設備全体の管理・保全、そして図書館部分以外の多目的ホール、展示ホールの事業の企画・運営を実施しています。従って、今後、文化活動、生涯学習活動、図書館活動がどのように有機的に運営され、利用されるかが課題となります。

（三国町立図書館 谷川 亮泰）

# 談 話 室

## 『資格 — 司書ねえ…』

司書の資格は大学で取った。何が何でも司書になりたかった訳では勿論ない。名もない女子大の、しかも国文学専攻では、不況じゃなくてもろくに就職先なんぞなかった。“青春の思い出づくり”の4年間であってたまるか、どうかしなくちゃ…と、半ば強迫観念で取得したのが、「司書」と「学芸員」という、字面は大仰だけれど、果たして本当に実社会で役に立つのかもわからない資格であった。現在私が図書館で働いていられるのは、私なりにその資格にこだわった結果であろう。

ところが、最近その資格なるものに疑問を抱いている。優秀な図書館員の方々は、よくその専門性を重要視なさるが、資格にこだわればこだわる程、図書館とそこで働く図書館員を、どんどん閉鎖的にしてってしまうような気がするのだ。司書でなくても図書館にとってプラスとなれる人材を、間口を広くして取り込むことも必要ではないだろうか。これからの図書館運営のあり方、役割の多様性を考えると、一層そう思うのだが。いずれにせよ、頭でっかちの“井の中の蛙”にはなりたくないものである。

(武生市立図書館 橋本 美帆)

## クリスマスのまへのばん

～大野市図書館バージョン～

それは12月17日の夜。そう、図書館のクリスマス会のまへのばん。外は雪。ホワイトクリスマス。内容は、ハンドベル・エブロンシアター・パネルシアター・ミニツリー作りに影絵「マッチ売りの少女」と、盛りだくさん。整理券もなくなり、問い合わせの電話も多い。なのに、影絵の背景、BGMがほとんど出来ていない。よって練習も出来なかった。雪がひどく、遅くまで残っていられない。頭の中がパニックで飽和状態。

頼まれたら絶対にイヤとは言えない助っ人6人をしっかり当てにして立てた計画。Y&Kさんに「本当にやるん？出来るん？」と念を押され、あまりの楽観的にアキレ眼で見られた事を思い出し、胃まで痛くなってきた。

当日午前中の集中力は素晴らしく、本番は大成功。これは助っ人6人の誰一人が欠けても出来なかった事。感謝している。あまりの大変さと、成功の嬉しさで、すっかり舞い上がり、私達のクリスマスは18日で終わった。

休日が明け、本物のクリスマスに盛り上がる世間に馴染めなかった。と同時に私の、楽天なんとなかなさ主義にますます磨きがかかった。これはまずいかもしれない。

(大野市図書館 乾 孝子)

## 目の前にあるカップ

図書館に勤めていると、時々言われるセリフがある。それは「図書館？図書館って本を貸するのが仕事なの？」と「図書館にいるとたくさんの本が読めていいね。」と「図書館に勤めるには資格がいるんでしょう。何だっけ。そうジョシって言うのよね。」最後のは司法書士と混同しているらしい。これらのセリフから察するに、図書館の仕事は、ずっと座っていて時々本を貸して、あとはゆっくり好きな読書をたのしんでいる、とても優雅な仕事だと思っっているらしい。図書館はカウンターにいる人が全てだとも思っっているらしい。そんな人達には、あとの説明がとても大変だ。

学生のなかにもそう思っっている人がたくさんいる。そんな人達は私達を『利用できる』という事を勿論知らない。一緒に本を探すとやたらに恐縮する学生がいる。「お仕事なののにすみません。」と言われた時にはちょっと笑ってしまった。

私達は利用者の人達のためにいつでもカップに水をを入れて待っている。準備は万事整っている。でもカップを持ち水を飲むのは利用者の方次第だと思っっている。

(福井工業大学図書館 五十嵐 香織)

## 雪の早朝

子供の時、雪が大好きでした。どっさり降り積もった雪にワクワクしたものです。家から小学校までの長い道のりを、集団で雪合戦や氷ケリなどで遊びながら通学していました。

大寒の頃の晴れた朝には、積もった雪の表面がこおりつきます。とんでもはねても大丈夫です。真っ白な雪の上に立つと、空に浮かんだ雲の上にいる気分になりました。当然、小学校への道も雪の上を歩いて行きました。

学校へ近づくにつれて、あちこちから雪の上を歩いてくる子供達の集団と出合います。この頃になると、少しずつ気温が上がらだし、足が雪にめりこみはじめます。そして、朝だけの楽しい時間は終わるのでした。

最近では、暖冬で雪が少ない年が続き、通学路には、スクールバスが走るようになったので、雪の上を歩いての登校はどうなっているのでしょうか。

雪が久し振りに積もった寒い朝、突然に思い出した昔の話です。

(福井市立図書館 銅子 留美)

## 福井地区大学図書館協議会研修会

6月の定例会議において承認された事業計画にもとづき、今年度は、福井工業大学が幹事校となって、8月26日に平成5年度の夏季研修会を行った。

研修会は、福井市によってこの度復元され、6月より一般に公開されるようになった養浩館庭園についての講話と見学を内容とするものであり、養浩館に隣接する葵会館（福井市宝永）に6校23名が集まった。

まず、新進の研究者、白崎卓氏より養浩館庭園（旧御泉水屋敷）についての講話を聴講した。氏は、福井市文化課主査として、昭和60年以來の福井市による同庭園の復元事業に参画して来られた方であるが、福井藩主松平家の別邸として建築され昭和20年の空襲で焼失した旧養浩館庭園の歴史及び規模・構造等について、また、復元になった新養浩館庭園の特色や構造等について約1時間にわたり話をされた。

その後、今度は、隣の養浩館へ移動し、白崎氏の案内・説明によって庭園及び建物を見学し、鑑賞した。新養浩館は26億円の費用をかけて建造されたとされるが、さすがに立派なものであり、空襲や震災の故に見るべき文化財に乏しい福井市にあって、今後、鑑賞に堪え得る貴重な文化財としての役割を果たして行くものと思われる。

（福井工業大学図書館 鉾之原 善章）

## 福井県学校図書館協議会この1年

- 5月6日 敦賀地区理事会／於敦賀高校。（第34回近畿学校図書館研究大会福井大会の運営について）
- 5月14日 県役員会／於武生高校。
- 5月20日 第1回県理事会／於武生高校。（予算・決算の承認・年間行事計画の審議等）
- 6月3日 S L B C加入申込み第1回締切。81校加入。
- 4月～6月 第19回県小中学生読書感想文コンクールに参加。（福井新聞社主催、県S L A後援）
- 7月～10月 平成5年度文庫による読書感想文コンクールに県内中高生が参加。（福井新聞社主催、県S L A後援）
- 10月15日 S L B C加入申込み第2回締切。
- 10月26日 第39回青少年読書感想文コンクール県予選を実施。小学校230校4,485編、中学校51校1,220編、高校22校9,970編応募。
- 11月11日 第31回福井県学校図書館研究大会／於弥美小学校・美浜中学校・美浜中央公民館。（小中高関係職員参加数220名）
- 1月20日 県役員会／於武生高校。
- 1月20日 第11回読書感想文コンクールに県下小中学生が応募。県審査取りまとめは一乗小学校。
- 2月25日 第2回県理事会、役員会／於武生高校。
- 2月下旬 会誌「福井県の学校図書館」第39号の発行。（福井県学校図書館協議会事務局長 齋藤 星次）

## 県立大学情報センター分室開設1年目

平成5年4月、日本海側で唯一の海洋系学科である、生物資源学部海洋生物資源学科を中心とした、福井県立大学小浜キャンパスが小浜市に誕生、同時に福井県立大学情報センター分室が開設されました。

学科の性質上、単行書より、学術雑誌やアドヴァンスものといった逐次刊行物の収集にむしろ比重がおかれていることが、当室の特徴といえるでしょう。今後20年間に約5万冊を整備し、研究・教育に資することを将来における目標としています。

また、福井・小浜キャンパス間は1Mbpsの専用デジタル回線によって接続されており、情報資源の共同利用、オンライン端末による目録作成・検索等が可能となっています。当面は、資料の収集方法・各種作業のノウハウの確立、合理化、省力化が課題ですが、開かれた大学としての機能を果たすべく、触手をのばしていこうと考えています。

（福井県立大学情報センター分室 伊藤 多恵）

## ■平成6年度研究集会および研修会（予定）

区 分	開催地	期 日
全 国 大 会	鳥 取 市	平成6年10月26日～28日
整 理 部 門	長 崎 市	〃 9月1・2日
奉 仕 部 門	金 沢 市	〃 10月20・21日
参考事務分科会	秋 田 市	〃 10月6・7日
児童図書館分科会	浦 和 市	〃 11月17・18日
東海北陸地区公共図書館研究集会	名 古 屋 市	期 日 未 定
日本図書館協会地方講習会	富 山 市	〃
東海北陸地区視聴覚ライブラリー研究協議会	山 中 町 （石川県）	平成6年8月25・26日

## 事 務 局 通 信

ここ数年来、図書館建築が相次いでおり、今年度も三国町立図書館の改築、福井県立大学小浜キャンパスに福井県立大学情報センター分室の新設がありました。また、上志比村・春江町・大飯町では、現在図書館建築の工事が進められております。この3町村においては、初めての独立した図書館の誕生であり、開館が待ち望まれています。このほか、独立した図書館のないいくつかの町村に図書館建築の動きがあり楽しみにしています。

お泉水No.24の発行にあたり、御多忙中にもかかわらず執筆いただきました方々に、厚くお礼申し上げます。

（福井県図書館協会事務局）